

公益財団法人 かわさき市民しきん

2019 年度 事業報告書

1. 「かわさき市民しきん」の目的

当財団は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“かっこいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ち豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

3. 2019 年度を振り返って

2019 年度は公益財団法人として 2 年目、財団の設立からは 5 年目の事業となりました。

[事業支援しきんあとおし 2019]では、応募数・対象事業は 3 事業で、寄付募集を行いました。[事業支援しきんあとおし 2018] の 4 事業についても、事業が実施されました。[事業支援しきんあとおし]については、より寄付しやすく、応募しやすい新しいウェブサイトの構築について検討を行いました。2020 年度にリニューアルの予定です。

[意思実現しきん いしずえ]については、新たにご寄付をお預かりし、2020 年度の実施に向けて準備を行いました。

川崎市から受託を受けているプロボノ事業については、「川崎プロボノ部 2019」を運営し、多くの方が地域の活動にかかわる機会を提供し、川崎での主体的なプロボノコミュニティの構築のための活動を実施しました。

2019 年度 3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のために様々なイベントが中止になったり、学校が休校になったりと社会の在り方に大きな変化が生まれました。今後、市民活動の在り方も変わっていくことが予想されます。当財団として、何ができるのか、次年度以降検討が必要です。

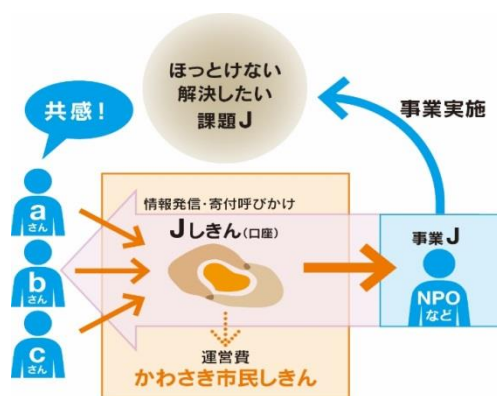
4. かわさき市民しきんの主な事業報告

(1) 助成プログラムの実施

① 事業支援しきん あとおし

「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動する NPO などから、今必要とされている事業を募集し、選考します。そして、当財団を通して、それを広く市民に訴えその解決策(=NPO などが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選ん

で寄付をします。集まった寄付金から運営経費（寄付金の15%）を引き、それぞれの事業に助成します。



◆2019年度の「あとおし」実施報告

・助成対象事業の募集及び選考

募集説明会：6月22日（土）10:30～11:30 会場：高津市民館第1会議室

7月5日（金）18:30～19:30 会場：かわさき市民活動センターAB会議室

対象事業募集期間：7月1日（月）～7月31日（水）

説明会や個別相談会に来た団体は5名3団体、実際の応募数は3事業（団体）でした。

選考委員会：9月20日、選考委員4名中4名出席

応募3事業とも選考されました。

①つながりを育む居場所・地域カフェをふやしたい！「交流会」と「ポスター展」の開催

実施団体：多摩区認知症カフェ・地域カフェ交流連絡会

②地元飲食店のネットワークでつくる 非常時に役立つ「防災レシピハンドブック」

実施団体：まごころキッチンプロジェクト

③子育てママやパパの負担を減らしたい！ デジタル化とメディアでPTAをハッピーに

実施団体：NPO法人 ハピタ

・研修会：「鎌倉 iikuni」に学ぶ地域限定クラウドファンディング

10月3日（木）夜 パサールベース

講師：松本裕さん（iikuni 事務局長 株式会社Buddying代表取締役）

参加者は35名（うちあとおし対象団体からは3名の参加）

この研修は「あとおし事業」の見直しのために先行して地域限定クラウドファンディングを行っている鎌倉の事例を学ぶという目的がありました。なので「あとおし2019」対象団体だけでなく、一般参加者も対象にして開催しました。ここで学んだことも参考に、寄付募集の計画を作成し、寄付ブック作成をしました。

※設立時から開催してきたあとおしのドネーションパーティは、これまでの開催の反省により、今年度は開催しませんでした。

・寄付募集について 期間：2019年12月1日～2020年2月29日

1事業、目標額（10万円）の2倍に達成した事業がありました。今回は目標額自体も低かったのですが、寄付総額もかなり低くなりました。

対象団体への振り返りアンケートでは、寄付者に関して自団体や知人の割合が非常に低く、最高で50%強、最低は一桁の%でした。「自分たちで寄付を集めることの難しさを実感した」、また「1月はインフルエンザ、2月からはコロナでイベントが実施できず、寄付集めのチャンスを作ることができなかった」、という記述もありました。寄付集めの最後の追い込みに、コロナ感染防止の動きがあり、その影響も大きかったと考えられます。

一方、「日頃の活動の忙しさでできなかった市民へのPRがしっかりとできた」「なかなか自分たちだけではできなかった寄付集めを、公益財団に仲介してもらうことで信頼を得ることができた」「パンフが活動のPRに役立った」というメリットと、逆に「あとおし自体の発信力が弱く、事業者側の努力に頼らざるを得ない仕組みになっている」というコメントもありました。事業者側の努力は絶対必要ですが、当財団の発信力が弱いのも事実です。その改善策として、2019年度はあとおしの仕組みの見直し中です。

・寄付募集結果

| 団体名 | 寄付総額 | 寄付者数 | 目標額 | 達成率 | 助成金 |
|---------------------------|---------|------|---------|------|---------|
| 多摩区認知症カフェ・地域 カフェ交流・連絡会 | 200,390 | 38名 | 100,000 | 200% | 170,332 |
| まごころキッチン | 83,000 | 17名 | 150,000 | 55% | 70,550 |
| NPO 法人 ハピタ | 83,510 | 16名 | 400,000 | 21% | 70,984 |
| 総合計 | 366,900 | 71名 | 650,000 | 56% | 311,866 |

◆「あとおし 2018」の4事業の中間実施報告について

「あとおし 2018」の助成対象事業は以下の4つです。2019年度に事業実施をすることになっていたので、中間視察として7月から11月の間に訪問しました。いずれの団体も、事業を計画にそって着実に実施し、5月に提出される報告書で最終確認となります。

ただし、(ロ)の「なかはらミュージカル」は3月21日、22日の公演予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。公演そのものは残念ながら中止になりましたが、この1年間は出演者募集に始まり、オリジナル脚本、曲の作成、練習、公演準備と1年間の事業のほぼ90%を実施しました。当財団の助成金は目標寄付額の約25%でしたが、その使い道は「ダブルキャスト配役のキャラクター特殊衣装作成」として、すでに支出済みのものだったので、返還は行わず、そのまま助成することにしました。寄付者の方にはそれぞれお手紙でお知らせしてご了解をお願いしました。

他の事業も含め、報告書は2020年5月末までに提出され、その結果は当財団HPへ掲載します。

- (イ) 親と子、親と親、そして親子と地域をつなぐ「赤ちゃんとのかかわりあそび」
- (ロ) 市民の手で未来につなげたい、なかはらミュージカル。
- (ハ) 不安を抱える女性たちへ、安心できる暮らしにつなぐ相談事業を!
- (ニ) 障がいのあるなしに関わらず、誰もがダンスで幸せになるビデオを創りたい

◆「事業支援しきん あとおし」仕組みの見直しについて

当財団設立時から昨年まで4年間、2017年は応募団体がなく、実質は3回のあとおしの事業を実施してきた中で、もう少し気軽に応募でき、気軽に寄付でき、発信力のある仕組みを考えよう、とプロジェクトを作り検討してきました。10月には研修会を開催し（前述の研修会参照）、当財団で、川崎市版クラウドファンディングのサイトを2020年度に立ち上げることになりました。

②意思実現しきん いしづえ

特定の目的のための“しきん”を当財団がお預かりし、その目的のために活動するNPOなどへ助成するプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。事例として以下を参照。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成

- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成

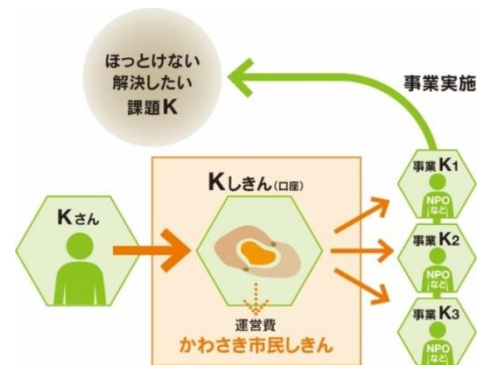
◆2019年度の「いしづえ」の実施報告

2019年度は、DV被害者のシェルターを運営していたNPO法人「グループビボ」が解散にするにあたり、その残余資金を9月に当財団に寄付していただきました。グループビボの長年の活動にふさわしい助成プログラムとするため「困難な問題を抱える女性へのサポート事業」を行っている団体に対する助成プログラムを組成することとしました。2019年度は準備期間とし、2020年度に事業を実施することとしました。

当財団ではこの分野の情報が少ないため、川崎市の担当部署やこの分野の中間支援組織にヒアリングを行い川崎市における現状の把握を行いました。

このヒアリングから川崎市内2団体、川崎市周辺3団体が今回の助成プログラムの対象になる活動を行っていることが分かりました。今回の助成プログラムをより充実したものにするため、この5団体に12月から3月までヒアリングを行いました。ヒアリングの内容は、各団体の活動内容や活動実績及び活動から見える「困難な問題を抱える女性の現状」などです。

2020年度の助成プログラムの実施を目指して予定通り準備を進めることができました。



③課題設定しきん たくわえ

新しい仕組みとして、課題設定しきん「たくわえ」をスタートしました。川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを設定し、その活動について寄付を集めます。集まった寄付を、そのテーマで活動するNPOなどが行う活動に助成します。2019年度は、「子ども食堂基金」について寄付を募るための募金箱として、招き猫貯金箱に子どもたちが色を塗るワークショップを開催しました。

- ・招き猫募金箱に色を塗ろう！ 8月22日、24日（1日2回開催）合計4回開催 22名参加

④寄付文化創造に向けた講座・セミナーの開催

広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けて、下記の通り、寄付文化創造のための講座・セミナーを開催しました。これはあとおし対象事業向けのセミナーとしても実施しています。

- ・研修会：「鎌倉 iikuni」に学ぶ地域限定クラウドファンディング

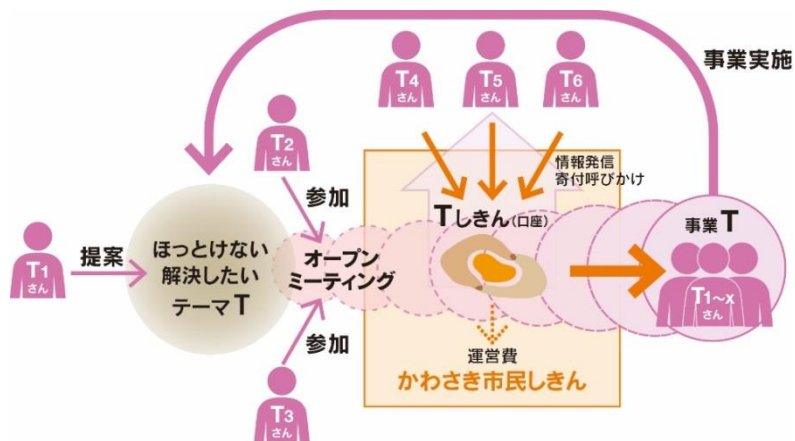
10月3日（木）夜 パサールベース

講師：松本裕さん（iikuni 事務局長 株式会社Buddying代表取締役）

参加者は35名（うちあとおし対象団体からは3名の参加）

この講座は「あとおし事業」の見直しのために先行して地域限定クラウドファンディングを行っている鎌倉の事例を学ぶという目的がありました。なので「あとおし 2019」対象団体だけでなく、一般参加者も対象にして開催し、多くの方に参加していただきました。

(2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく



独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを当財団とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を当財団と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

◆2019年度「えんたく」の実施報告

2019年度は、遺贈に関して調査・研究を行うため、地域で活動する「こがも会」の方を講師に、理事向けの学習会を開催しました。また、外部の学習会にも積極的に参加してきました。次年度以降、リーフレットの作成や、外部向けの講座の開催などを目指していきます。

(3) 相談・支援事業

①川崎プロボノ部 2019の実施

2016年度に川崎市が行うプロボノ事業のノウハウ移転先として支援を受け、2017年度はプロボノチャレンジ KAWASAKI2017として実施したものを、2018年度に引き続き、2019年度は川崎プロボノ部として川崎市の委託を受け、実施しました。市民が主体となって参加するプロボノコミュニティの構築を目指して、実施しました。

■実施内容

オープニングセミナー、説明会の開催：5回

支援団体：7団体、参加プロボノワーカー：29名、運営委員 6名

プログラム：オリエンテーション、キックオフミーティング、成果提案、振り返り会

※報告会は3/7に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

■成果

・NPO・市民活動団体、町内会自治会・商店会へのプロボノプロジェクトでの支援の実施

川崎市内で活動する7団体を支援先団体としてプロボノプロジェクトを実現し、各団体の抱える課題をプロボノによって整理、解決等の支援をいたしました。参加したすべての団体が高い満足度を示しました。今年度の参加団体として特徴的なのが、町内会自治会が運営する避難所運営委員会や商店会の参加がありました。これまで支援先団体は、課題解決を目的とするNPO・市民活動団体を中心だったのですが、地縁的な団体へのプロボノの活動の浸透が一層進むよう、引き続き、町内会・自治体に働きかける必要があります。

NPO・市民活動団体、町内会自治会、商店会の抱える課題は様々ですが、NPO・市民活動団体にとってだけでなく、町内会自治会や商店会にとっても、プロボノという第3者の視点が入ることにより、団体の活動が活性化するきっかけになることは今年度の取り組みからも明らかになりました。

・市民が主体のプロボノコミュニティの構築

今年度は昨年度に引き続き継続的なプロボノ活動、プロボノコミュニティの構築を目指してきました。将来的なプロボノコミュニティの担い手となる運営委員制度も2年目となりました。昨年度の運営委員はプロジェクトの進捗管理やフォローアップが中心でしたが、今年度は説明会や団体ヒアリングなどにも参加し、また、毎月定例の運営委員会を開催し、プロボノプロジェクト全体の運営についても運営委員の皆さんと進めてきました。事務局のみならず、運営委員も含めて、プロボノコミュニティを構築していくことが今後期待できます。

運営委員制度を軸として、プロボノ経験者の継続的な参加、また、より多くの新規の方に参加してもらえるような魅力的な仕組みを作っていく必要があります。

また、川崎市内企業の社会貢献活動や人材育成という観点でのアプローチを実施して、川崎ロータリークラブの卓話や過去プロボノ参加者の所属する企業内への情報展開もしていただきました。継続的な活動をするためにはこのような企業との連携が必要です。

②川崎住宅奨学金事業への支援(対象川崎市内の高校2/3年生)

一般財団法人川崎住宅奨学会の奨学金事業について、学校への案内や応募者の取りまとめなどの支援を行いました。2019年度は3年目ということで、継続10名新規10名合計20名の奨学生が選定されました。2020年度の募集開始についても、案内の送付などを行いました。

(4)その他の事業

①寄付者獲得プロジェクト

かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」を推進するための「市民しきんサイト」の運営を行いました。また寄付募集のツールとして、クレジット決済のサイトが活用されています。HPのリニューアルについては、今後検討の予定です。

②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 9回 ニュースの発行 0回

(5) 賛助会員制度

上記の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けています。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく公益財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

① パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加できる制度。

企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

② 賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

③ 個人会員 1口5千円

◆2019年度実績

賛助会員 団体2、個人26名（昨年度3団体、個人31名）賛助会費210,000円（昨年度270,000円）

応援寄付：団体0、個人6人+募金箱（昨年度1団体、個人11人）合計44,844円（昨年度210,268円）

課題：賛助会員、応援寄付ともに公益財団法人になった昨年より減となりました。賛助会員を会員と位置づけ、毎年会員への働きかけが必要です。また理事、評議員なども積極的に会員を勧誘する取り組みが望まれます。